

演題名 スマートフォンの利活用（利用時間及び利用した結果に生じた生活の変化）の状況と家族・友人からのサポートの関連

筆頭発表者氏名・共同発表者氏名 水野一成、近藤勢津子、吉良文夫

所属先 NTT ドコモ モバイル社会研究所

【目的】

60・70 代において、スマートフォンの利活用に及ぼす「家族からのサポート」と「友人からのサポート」がどの程度影響しているかを明らかにする。

【方法】

2023 年 1 月に全国の 60・70 代を対象に実施した訪問留置法による実査結果を用いた。スマートフォンの利活用については①利用時間の多寡②スマートフォンを利用したことで生じた生活の変化の多寡をみる。

倫理的配慮：調査票作成にあたり、研究所内で審議を経ている。その際、指導的役割の専門家より十分な指導を受けている。回答データは統計的处理をし、個人を特定しないこと、調査は強制ではなく調査員が調査内容の説明の上、了承を得ている。

【結果】

1. 60 代においては男女ともに「家族からのサポート」「友人からのサポート」の有無と、それによるスマートフォンの利活用「利用時間」及び「生活の変化」に差は認められなかった。
2. 70 代では女性は「友人からのサポート」があると「利用時間」が長く、「生活の変化」を実感している。また「家族からのサポート」がある場合、「生活の変化」を実感している割合が高かった。男性は「家族からのサポート」「友人からのサポート」の有無と、スマートフォンの利活用「利用時間」及び「生活の変化」に差は認められなかった。

【考察】

上記の結果が確認された理由としては以下の点が挙げられる。

1. スマートフォンを所有した理由
70 代女性は他と比較し、スマートフォンを所有した理由として「家族からの勧め」の割合が高い。
2. スマートフォン所有率と友人との交流頻度
70 代女性は他と比較し、友人との対面での交流頻度が多い。スマートフォン所有率は 78.1%とある程度普及していることから推察すると、友人との交流の中でスマートフォンを活用することや、教え合う機会が生まれていると推察される。
また、家族がスマートフォンの各種設定や活用を、シニアから依頼され代わりに行うと、スマートフォンのスキル習得が進まず、利活用が促進されない可能性がある。さらに能動的（使いたい機能・サービスがあった）理由でスマートフォンを所有したシニアは 17.3%存在し、習得方法も自力（参考書やネットで調べる）の人が 15.2%存在しており、この人たちは必ずしもサポートを望んでいないことも想定される。

【結論】

70 代の女性のみ「家族・友人からのサポート」がある方がスマートフォンの利活用が活発であった。